

小さな暮らし と 新しい毎日

太っ腹とは
気分が良く他人に対して分け隔てのない
寛大な人物を形容する言葉である。

それを人ではなく、家としての住空間
を形容する言葉に変換するとどうなる
だろう。

誰をも迎入れる寛大な空間。
すなわち、『プライベートとパブリック
の中間領域が極限まで大きく、多様な
人々の様々な活動を許容する空間』と
読み換えることができるのかもしれない。

そこでは、家としての暮らしがありなが
らも人々の多様な趣味趣向を包含し、
同じ嗜好の仲間が集まることで趣味の
活動を中心とした共同での暮らしが成
立している。いわば、趣味を媒介とし
たミニマルな住空間があるのかもしれない。

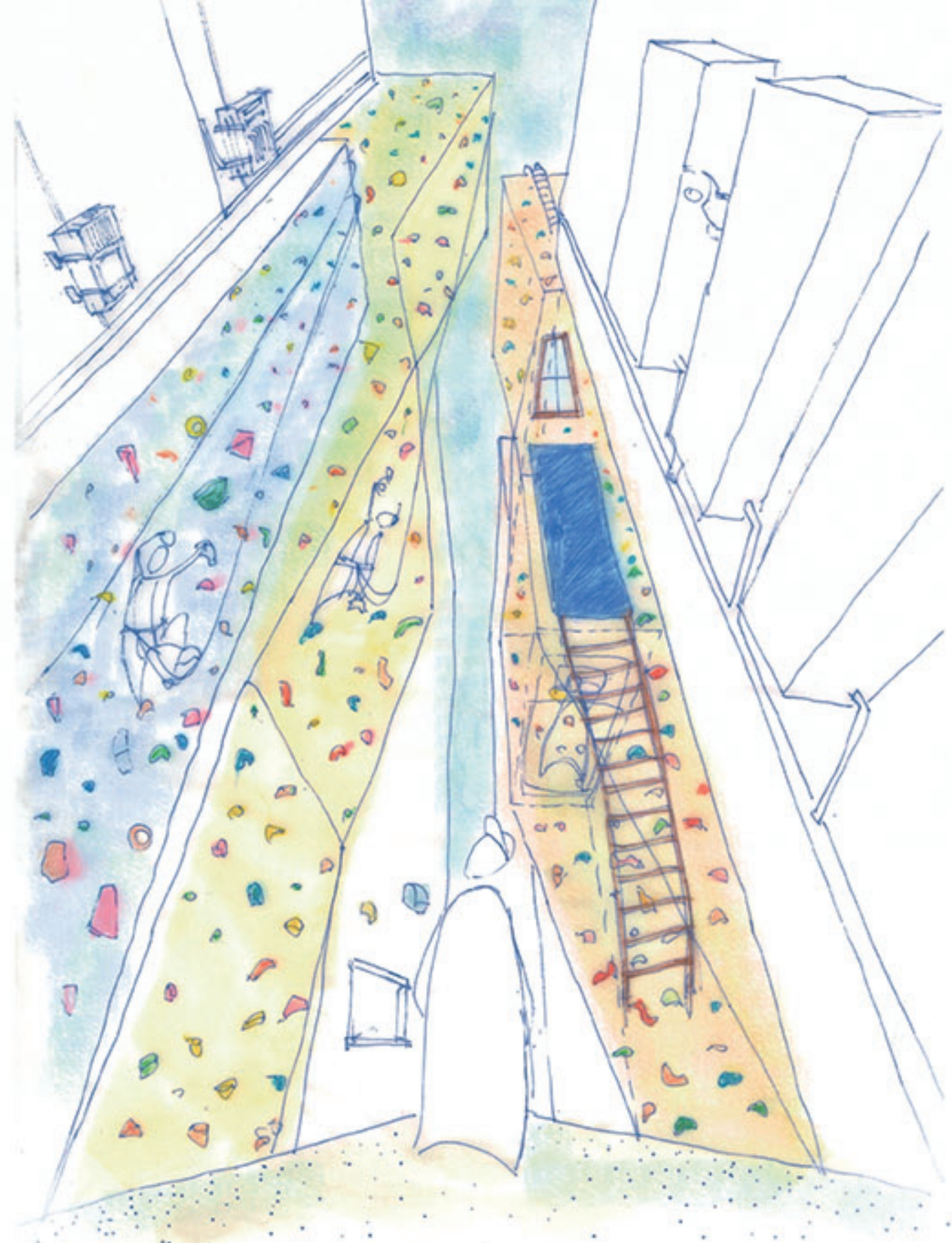
他者との交わりが希薄となった今日。
他者の生活と必然的に触れられる様に
不特定多数の人々が利用する路地や歩
道橋などの取って狭い通路空間に着目
した。そこでは趣味を通じた交流が行
われ、今までとは違う新しい住まいの
在り方が考えられるのではないかと。

狭い通路ゆえに密度の濃いこの暮らし
があらゆるところで自然発生的な触れ
合いを誘発していき、趣味の活動を中
心とした交流が盛んに行われることで、
精神的に豊かなまちとなることを願っ
ている。

狭い通路空間



オランウータンの森
高層ビルの壁面を使いボルダリングジムを計画する。寝室やキッチンなどは壁面内部に格納され地上に降りることなく生活できる



展望橋キッチン
歩道橋を利用する方に料理を振る舞ったり、おしゃべりしながら料理を楽しむことができる。道ゆく人や車にキッチンスタジオの広告を兼ねた大開口により開放的な空間となる



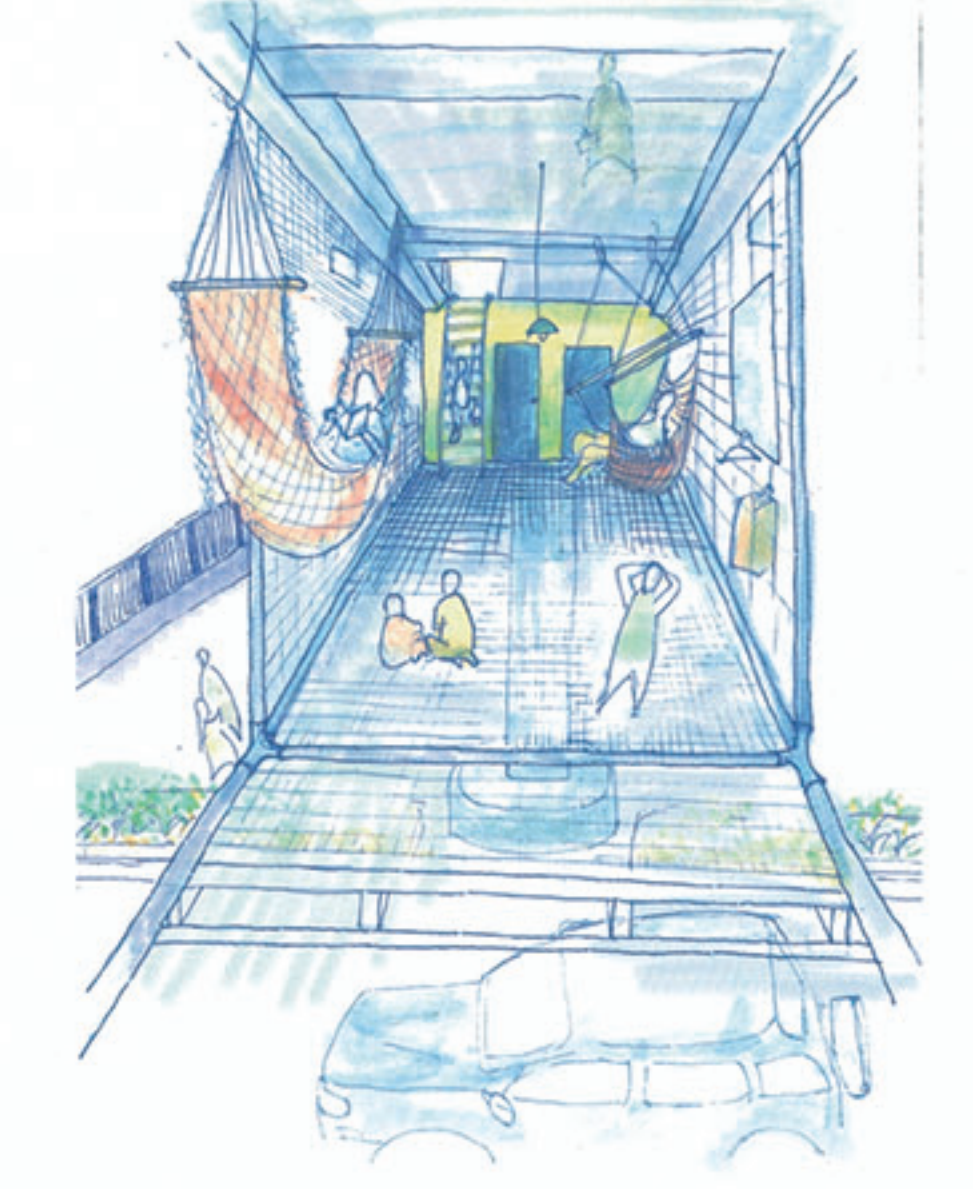
地底のシネマ座
薄暗い地下道を利用した映画が趣味な人が集まるスポット
通行人は自然と彼らの観る映画に視線を奪われ多くの人が同じ時間を共有するだろう



マーメイドラグーン
熱帯魚が趣味な者が集まることで街角に小さな水族館が誕生する。近所の子供やカップルが通う幻想的な路地空間となる



風に揺られナウシカ
歩道橋の下にハンモックで出来た住空間を計画することで風通しの良い特殊な空間が生まれる



我輩もねこである
社会に嫌気のさしたねこ好きが日常を忘れ、ねこのように自由に暮らす場所



木の虫の巣窟
細い坂道や階段の多い路地は木も読むのに心地よいベンチや空間をゆるく隔てることに適した空間となる



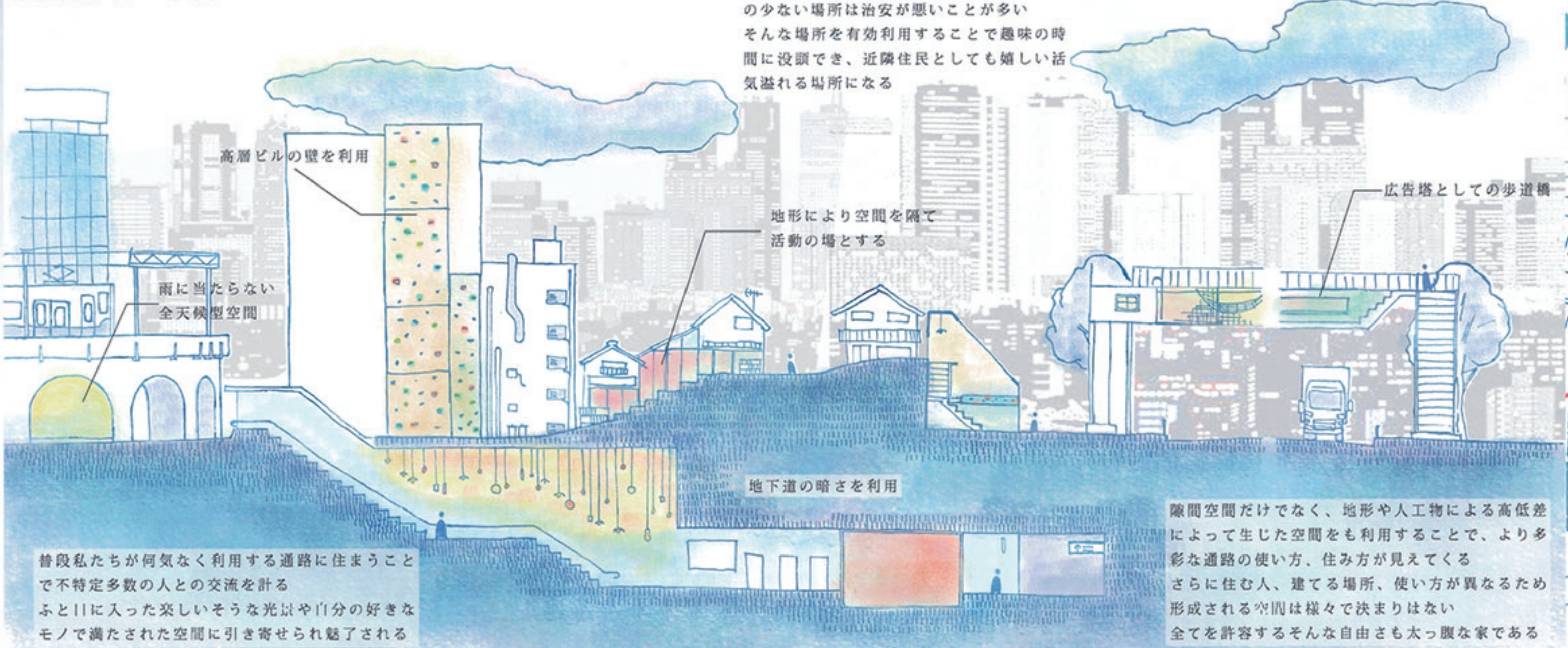
高架下ブルース
特徴的な形態の高架下を利用することで、ステージのフレームの役割を果たし新しい演出と共にまちに向けた公演が始まる



ピエンナーレ路地裏芸術祭
路地裏に住みながらアート作品の制作展示を行い、路地ならではの演出をすることで暗い路地に活気を与え交流の拠点となる



連続断面イメージ図



普段私たちが何気なく利用する通路に住まうことで不特定多数の人との交流を計るふと目に入った楽しいような光景や自分の好きなモノで満たされた空間に引き寄せられ魅了される

薄暗い路地裏や高架下、地下道など人通りの少ない場所は治安が悪いことが多いそんな場所を有効利用することで趣味の時間に没頭でき、近隣住民としても嬉しい活気溢れる場所になる

隙間空間だけでなく、地形や人工物による高低差によって生じた空間をも利用することで、より多彩な通路の使い方、住み方が見えてくるさらに住む人、建てる場所、使い方が異なるため形成される空間は様々で決まりはない全てを許容するそんな自由さも太っ腹な家である

エリアイメージマップ

